

二 神社

(一) 概要

久保田町内に古くから祀られた神は、その数を詳らかにすることはできない。集落が成立するとやがて社祠がつくられ、神が祀られた。それは個人の信仰というより、その所属する社会集団にとつての神であった。

仏教伝来によつて神仏習合がはじまると、神社のそばに神護寺が建てられ、あるいは寺院に付随して神社が祀られるなど、神官と僧侶が深い関係をもつようになった。そして個人的な祈願信仰が加わつてきた。

明治になると神仏分離令が出されて、仏教的色彩が排除された。そして官国幣社、府県社、郷社、村社などの社格が決められ、国家の保護の下におかれた。明治三十九年（一九〇六）四月、勅令九六号、八月の勅令二二〇号と内務大臣の地方官（知事）への指示によつて、神社の合祀令が出された。合祀のねらいは、小さな経済力の弱い神社を合祀統合させ、崇敬の実をあげさせることであつた。また、町村まとまつた神社をつくるねらいとした。久保田町内でも「寄せ宮」と呼ばれて、神社の境内に合祀されたものも多い。

第二次世界大戦以後は、昭和二十年十二月、連合軍總司令部は「国家神道、神社神道ニ対スル政府ノ保証、支援、保全、監督並ニ弘布ノ廃止ニ関スル件」という指令によつて、神社と国家との結びつきが禁止された。

明治以来信仰の自由は認められていたが、敬神崇祖は国民精神の基であり、最高道徳であつた。現人神あらひとがみとして崇敬を集めてきた天皇は戦後「人間宣言」され、神社も他の宗教団体と同じことになり、国の保護を離れ、神社を総轄する神社本庁のもとで宗教学人となつた。

(二) 久保田町の神社

1 香椎神社 久保田町快万

神功皇后	仁徳天皇	菅原道眞	大山祇神	香語山命
祭神	應神天皇	底筒男神	三女神	少彦名神
	住吉明神	海津見神	若郎子命	宇氣持神
	天若彦神	伊弉諾命	大國主神	宇迦魂命
			八重事知主神	

久保田町の神社
旧郷社 安元三年（一一七七）窪田の地頭因幡守藤原利常が筑前国（福岡県）の香椎宮の祭神の分霊を矢櫃の森（現神社の西）に勧請。のちに現在地に社地替えになつた（『矢櫃森記』）。有明海の干拓で拡大していつた久保郷の産土神うぶまがみで、近郷の信仰を集め、旧邑主の崇敬も厚く、免田の寄進、社殿の造営など実施した。例祭は春四月十六日、秋の神幸祭は十月十六日。神社には二基の鳥居と門一棟がある。一基は明神鳥居で正徳五年（一七一五）在銘、他の一基は町内唯一の肥前鳥居である。



香椎神社

四脚門は神社境内に立つ一間一戸の神門で、自然石を用いた礎石に角柱を建て、柱に頭貫を通し、三斗、実肘木を組み、その上に桁を置いた簡単な構架である。屋根は切妻造りの本瓦葺である。しかし、その意匠が雄大で、暮股やその他の彫物に桃山時代の特徴である華麗かつ豪壮な余韻が認められる。この門の建立年代の記録はないが、江戸時代初期のものと推定され、県の重要文化財に指定されている。この門は昭和三十七年に解体修理されている。

2 祇園社 久保田町久保田宿

国道二〇七号線沿いの久保田宿の中ほどにある。

社の創建の時期は定かではないが、弘化三年（一八四六）の西持院文書に、「祇園社敷地二畝十六歩、地米一斗七升五合、若狭殿分御免地宮司双林坊」という記録が残されていることから、それ以前の建立と推定される。

祭神は素盞鳴尊（須佐之男命）、荒神様として氏子の人々に恐れ敬われてきた。

境内の入口にある明神鳥居には「文久四年歲次甲子孟春吉旦」と刻されている。鳥居の両側には瓦屋根の格子塀が続いていたが、今はブロック塀に変わっている。

拝殿の前には、左右に「文久元年」と刻された石燈籠と、「万延元年」と刻された狛犬がある。他に、石の手水鉢があり「安政七年」と記録されている。



祇園社

久保田宿は、昔の長崎街道の宿場町として栄えたところで、往時、旅館はもちろんのこと、かじ屋、大工職、酒屋、桶屋、畳屋、床屋、豆腐屋、歌舞伎役者など数多くの家が軒を並べていたことから祇園祭りも華やかなものがあったと想像される。

毎年、旧暦六月十五日は夏祭り、神事、余興などで賑わった。

祇園社の夏祭りの日は、各家庭では、和紙を張った行灯を作り、絵を描き造花で飾って家の入口に立てた。

祭り客をもてなす料理は「タラの煮しめ」に「ウリの酢もの」などで、祇園の日はキュウリは食べないところが多い。切り口が祇園社の紋に似ているからとも言われている。また、祇園の日に泳ぐとカッパにヘソを抜かれると言ひ伝えのある所もある。

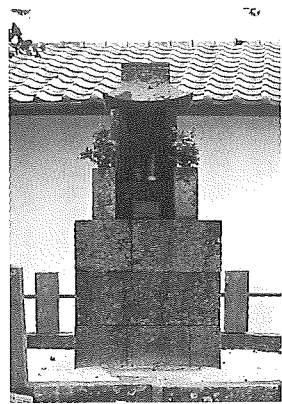
3 若宮社 久保田町 町東

香椎神社文書の『由緒抜出』によると、「徳万町若宮社敷地六畝十五歩、抱宮、宮権窪田因幡守、江原下総守、龍造寺山城守隆信、政家、高房公、右御代様より田地十六町御赦免」という記録が見られる。

現在の若宮社は、度々改築が行われているが、石造の神体には、「維時寛政十年（二七九八）戊午祀十一月神吉日」と刻字されている。拝殿前の常夜燈と狛犬には「万延元年（一八六〇）庚申霜月吉禎日仲冬吉良日」と刻字されている。明治三十四年（一九〇一）にも社殿が新築され、昭和三十三年（一九五八）には



若宮社



龍宮社

6 中副の龍宮社(ひゃーらんさん) 久保田町中副
久保田町徳方の交差点から南へ一・五キロ、中副下りバス停から東へ二〇分、中塚被服の西側に石造の龍宮社(ひゃーらんさん)がある。

石祠の右の扉には、小路、福島、中新江、下新江、村中三興と、左には「享保十六年辛亥(一七三二)三月如

意再建」と刻まれている。このことから、それ以前に創建されたものと推察される。
境内の左にある水盤には、「施主当村中、安政三年(一八五六)丙辰六月吉日、石工平七」と刻まれている。右の常夜燈には「安政五年(一八五八)戊午霜月吉祥」と刻まれている。

常夜燈の上には小さな狛犬こまが乗っている。龍宮さんのお水入れには「奉献古賀喜平次」と刻まれたのがあるが年代は不明である。

往時、嘉瀬川は嘉瀬橋から草木田、中副の龍宮社前、土井の古賀の東側を八の坪、大立野へと流れていた。その土井(居)は道路でもあ

明神鳥居が再建されている。

従来は、旧暦の六月十三日を例祭とされていた。豆祇園であった。現在は、子どもこの樽みこしなどで盛りあげている。

4 太郎次郎社 久保田町 町西

正徳五年(一七一五)十一月十五日藤原政盛によって勧請され、毎年十一月十五日には御祭料として米三斗お供えがあり、御名代の参拝が行われていたことが香椎神社文書で知ることができる。

明治二十五年(一八九二)八月、本野盛亨・総子が施主となり再建された。発起人は八田慎吾・香田多嘉司である。

境内の狛犬こまには、「天保六年(一八三五)乙未八月、常善坊盛諄」と刻まれている。

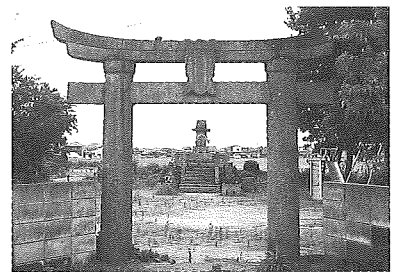
六月十四日を例祭日としてきたが、豆祇園であった。現在は子どもこの樽みこしなどで盛りあげている。

5 王子権現社(王子宮)と王子森稲荷社 久保田町上恒安

久保田宿下りバス停と徳万下りバス停との中間、国道二〇七号線の南、水田に囲



王子権現社と王子森稲荷社(上恒安)



太郎次郎社

り、嘉瀬橋から大立野に通ずる重要な幹線道路であった。(圃場整備の際、この土井はなくなった。)

この龍宮社は水神様で、旧暦の三月中は水難をのがれるために近隣各地からの参詣者で賑わった。特に奇数日はご利益あらたかと言ひ伝えられていた。

その時期になると、中副では、集落総出で藁ぶきの小屋を建て、お守札を頒布したり、駄菓子、ラムネ、トコロ天などの店を出した。掛小屋の舞台で、芝居やにわかなど上演されたこともある。

また境内一ぱいに筵を敷き、持ち寄ったご馳走をひろげ、酒を汲みかわしながら歌や踊りに興じた集落団樂の行事でもあった。

ひゃーらんさんは水難よけの神様として、また集落の氏神様として、二五〇余年前から今日まで静かに鎮座されている。

7 八の坪天神様 久保田町新田

久保田町新田、町役場の東、嘉瀬川堤防近くに、こんもりと茂った林の中に天神様のお社がある。

農道から参道を二〇ほど歩けば、寛政十年(一七九八)に建立された明神鳥居がある。境内の左側に切り妻瓦葺神殿と二間四方の拝殿がある。

神殿の造営年代は不明であるが、香椎神社文書の『由緒抜出』によると、「新田村八ノ坪天神精記殿御代御勧請敷地五畝二歩、抱宮、免田一段余右は毎年霜月二十五日祭式」とある。土地の人の言い伝えによると、一本の釘も使用せずに組み立てられているとのことである。

祭神は菅原道真であり、水害が起きないようにと祈りが込められている。(道真が九州に左遷されたあと、京で雷雨が続いたので、それを鎮めるために道真が祀られたのが始まりである。)

境内には嘉永五年(一八五二)二月吉日に、夏秋氏、原氏によつて寄進された水盤がある。拝殿前の両側にある狛犬には、慶応三歳丁卯(一八六七)十二月、神殿前の石燈籠には「安政六年(一八五九)己未二月吉日、新田村中」と刻されている。

「八ノ坪」という名称は、奈良時代の条里制による地番の呼称と思われる。

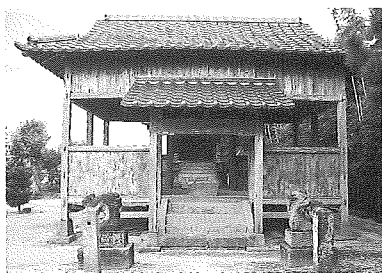
新田集落では、以前毎月二十五日におこもりが行われていた。今では毎年一回総こもりと言つて、四月の終わりから五月の初めにかけて一日、集落全戸から料理

を持ち込み、天台宗の真光院さんの神前行事が終われば、全員でお神酒を戴き、水難逃れや家族の安全、無病息災などを祈願する。

8 大立野の沖祇大明神 久保田町大立野東

大立野公民館の北側、嘉瀬川堤防沿いに、石造の沖祇大明神の社がある。この鳥居には、「維時文政三年(一八二〇)庚辰八月吉祥日施主邑中、五穀豊饒海上無難村中安全、石工新兵五」と刻まれている。

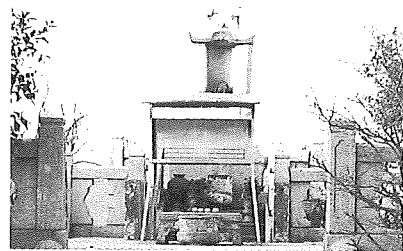
香椎神社の『由緒抜出』によれば、「土井古賀津、沖祇大明神は、享保十八年(一七三二)辛亥卯月吉祥御勧請」という記録がある。



八の坪天神様

現在の沖祇大明神の境内には、大正十三年（一九二四）八月朔（旧暦の八月一日）に、社再建の際に建立された改築記念碑があり、社の由緒が次のように刻まれている。

「当社ノ口碑ヲ按ズルニ今ヲ去ル三百有餘年慶長ノ頃、一老漁夫日々今ノ神社ノ辺ニ舟ヲ繋ギ上陸ヲ常トセシガ海汐声ノ中ニ不思議光ナルヲ看ル之正シク我信仰スル沖嶋ノ神靈此地ニ降臨マシマスモノト信ジ時ノ領主龍造寺政家公巡視ノ際言上セリ公モ深ク喜ビ給イ此ノ地ヲトシ神社ヲ建立シ沖祇大明神ト崇メ奉ル当社ノ祭神ハ大海津見命ニシテ慶長十一年（一六〇六）八月朔日藩主政家公ノ勸請ニシテ代々領主大祭ニハ代奏ヲ立テラレシ亦郷里ノ尊慕特ニ厚ク漁業者ハ御神ノ靈駿新ナルニ感銘シ毎年旧四月二十五日ニ恒例祭ヲ行ヒ大漁ヲ祈願シ今ニ至ル」



沖祇大明神

戦前、毎年八朔（旧暦の八月一日）のお祭りには、若者が御神体を水で洗い、掛舞台では忠臣蔵の芝居が上演されていた。

春祭りは、集落総出でおこもりをし、その後中副の龍宮社（ひやーらんさん）までお参りする慣習があった。

9 久富の御髪社 久保田町久富東

久保田橋の西側、嘉瀬川堤防横に、久富の人々が信仰している「御髪社」がある。

祭神は御彦大明神。石祠には「享保十年（一七二五）乙巳三月吉日、寄進久富村衆中」と、台石には「天保四

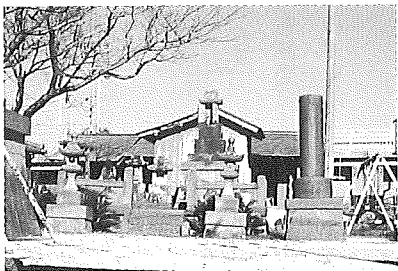
年（一八三三）三月吉日」と刻されている。

社前の明神鳥居の石柱には、「御彦髪沖大明神、弘化二年（一八四五）乙巳六月吉良辰」と刻まれている。

その後、嘉瀬川改修のため昭和三十五年（一九六〇）五月三日、現在地に移転改築された。

旧暦の四月八日には、漁業関係者によって、神前に酒と魚二匹を供え、海上安全、大漁を祈願する漁師祭が行われる。

御髪信仰は、有明海沿岸特有の信仰で、いつごろから始まったか明確ではないが、「御髪」は有明海唯一の島である沖の島の祭神で、各地にある石祠は沖の島の御髪神の分霊である。



御髪社

御髪信仰は沖の島が祭神であるため、古くは航海神、水神として漁家の信仰が中心であったが、時代が新しくなると、水を必要とする農業神としての性格を合わせもつようになり、それに風浪神としての性格も加わり、複雑な信仰の形をもつようになった。

久保田町の神社

10 八大龍王祠 久保田町江戸

国道四四四号線の久富交差点から南へ直進すること約一キロ、江戸集落の入口に、二線堤塘（通称松土井）がある。この土井の西へ二〇〇メートルのところに「八大龍王石祠」がある。

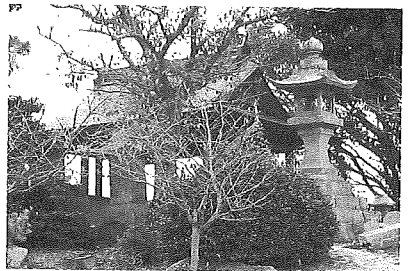
この勧請導師は、本町草木田の龍光寺の中興日賢上人である。松土井の築造が寛文年間（一六六一〜一六七二）と伝えられているので、その頃奉祀されたものと推定される。

以前は、搦東、西の新地の人々によって祭られていたが、現在は江戸の氏神様として崇敬されている。

毎年七月十六日には夏祭り（風祭りとも言う）が催されるが、当日は氏子が集まり境内を清め、龍光寺の住職を招いて祭事を行っている。

境内に一基ある石灯籠は、その昔は航海する舟の灯台の役目を果たしたとも言われている。その灯籠の正面には「奉寄進」、左側には「靄丸兵右エ門、池田理工門」、

右側には「慶応元年（一八六五）乙丑八月吉祥日」と刻まれている。また、その台石には五一名の寄進者の名前が刻まれている。



八大龍王祠

11 搦東の八幡社（三祠） 久保田町搦東

久富交差点から南へ五〇〇以、幹線水路東側に明神鳥居と高い台石の上に三体の石祠がある。

中央の石祠には、梵字（古代インドで発達した文字）によって祭神を刻んである。右側面には「この祠は寛文五年（一六六五）村田政辰によって奉斎し、当主村田若狭藤原政敏が改刻した」とある。また、座主に「宝地山杉本坊□宥智豊」と刻まれている。

左の石祠も、祭神は梵字で刻まれ、右側面に「寛延元年（一七四八）天、左側面に「二月吉祥日」と刻まれている。

右の石祠には「澳島大明神」と刻まれ、その石祠の右面に「元文五年（一七四〇）庚申季三月十七日勸□元」とある。

更に、明神鳥居の右石柱には「其鄙千載無広」と刻まれ、左石柱には、滋印周存、立野昇起、古賀兵部左衛門元敬、外寄進者多数の名前が刻まれている。

これら石祠の刻字を見れば、この時代の八幡社は、仏教的な影響が大きかったと思われる。

もともと、八幡神社は大分県の宇佐八幡宮の分霊が、京都の石清水八幡宮、鎌倉の鶴岡八幡宮に祀られ、全国各地の八幡信仰として伝わったと言われている。

寛文年間に松土井内の開拓が完成し、邑主村田政辰によって奉斎された、この搦東の八幡社は、久保田の歴史を物語る貴重な史跡である。



八幡社

12 三丁樋の神々 久保田町下新ヶ江

久保田町の南を走る国道四四号線に、下新ヶ江集落の三丁樋というところがある。

この付近は、久保田町と芦刈町の境を流れている福所江（境川）の下流で、川の水や潮の流れ、町内の水路の水量を調節する所として、昔から大事な役割を果たしてきたところである。また、有明海の水産物を水揚げする

漁港でもあった。

この三丁樋の船着場には、災害から生活を守るために神仏に祈った人々の姿を石造物に見ることが出来る。

改修された堤防の東側に大神神社のお堂があり、周辺にあった石祠などが、ここに集められている。

前の方に金比羅大権現、八大龍王、皇紀二六〇〇年記念大神神社改築寄付者名の塔がある。後ろには大神さんを中心に、左右に大日如来五躰、弁財天二躰、馬頭観音三躰、庚申塔、正一位稲荷大明神二躰が祀られている。

大神さんの石祀は古く、年代は不明である。久富の御髪さん、大立野の沖祇大明神、いずれも漁港付近にある。共通した人々の願いがうかがわれる。

大日如来は、諸仏を統一する中心の本尊として考えられてきたが、一般には疫病を退散させる本尊として祀られている。

左の大日如来の右側面には「寛政十二年（一八〇〇）吉日」、左側面には「施主下新江村中」と刻まれている。

弁財天は、七福神の一人で持物の琵琶が物語るように、技芸天としても広く崇拜されてきた。また、農業神としての性格も強く、水神として崇敬されてきた。

13 森正一位稲荷さま 久保田町永里

町道、上恒安く永里線から西へ永里集落に入ると、曲がり角の一角に朱塗りの烏居と二つのお堂がある。

朱塗りのお堂（東側）は、森正一位稲荷大明神で、京都の伏見稲荷の分霊を祀つてあると言われている。

西側のお堂は新しいが、集落の人は薬師様と呼んでいる。この二つのお堂の前に、石仏が六体お祀りしてある。

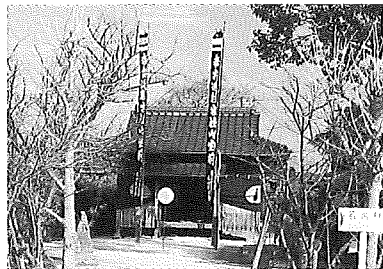
14 上新ヶ江の若宮社 久保田町上新ヶ江

国道二〇七号線久保田宿の西交差点から南へ約二キロの所に上新ヶ江の交差点がある。この交差点から西へ八〇メートル行けば、道路北側に若宮社がある。

八幡社の祭神は応神天皇で、その御子の仁徳天皇を祀つたのが八幡若宮と言われている。外に春日若宮もある。しかし、町内の若宮社がどちらであるか分からない。

若宮さんの祭りは十二月十五日。朝、氏子の男たちが社に集まり、お神酒を頂く。夕方は家族揃ってお参りをし、酒食を共にしながら歓談した。

また、二月一日は、百手祭りが行われる。当番は前日、竹で作った弓・矢と、竹を組んで障子紙を張った直径二尺（約六六センチ）の的を作る。祭りの当日は、各自一



若宮社



森正一位稲荷



三丁樋 神々

年間の家族の安全・健康と作物の豊作を祈りながら矢を放ち、運勢を占う。
旧暦の六月十五日は、子どもたちによる豆祇園が行われていた。

15 下満の山王社 久保田町下満

国道二〇七号線、久保田宿の西端から北へ約一五〇㍎、下満の民家を少々はなれ、王子製紙の工場を間近にした田園の真ん中に、山王社、天満宮、弁財天の三石祠が台石の上に祀つてある。

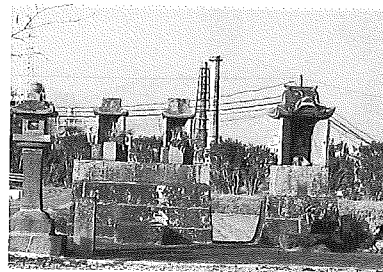
山王社の石祠は、台石から約一・八㍎、中に石像がある。石祠の右側面に「文政元戊寅天（二八一八）十一月吉良日」と刻まれている。前の方、左右に高さ約一・五㍎の小さな灯籠がある。その横には高さ五〇㍎ほどの石柱があつて「奉寄進、当村酒井平兵衛」と天保八四年（二八三七）」が刻まれている。

山王社は、県内では神埼町の仁比山にある仁比山神社が「山王さん」と言つて、県内はもちろん福岡、久留米方面から参拝する人が多い。

祭神は大山昨尊、農業の神さまである。山王さんには神令使の「さる」の像が祀つてある。

お祭りは毎年四月の初申の日とされている。十三年に一回の申の年には「大御田」という田舞が十三日間にあつて奉納される。田舞の中で種もみが蒔かれるが、その種もみを持ち帰つて一緒に蒔けば良い苗が育つ、と言ひ伝えられている。

古老の話では、下満の山王さんは、以前は現在地より東の方、山王屋敷に祀られ



山王社

ていたが、後、現在地に移された。春の祭日には旗を揚げ、浪曲などの余興があり、集落総出でおこもりなどもした。

今、山王さんは、氏子の皆さんの寄進により境内が整地され、石造物も整然と改修され、静かに田園の移り変わりを見守つておられる。

16 麦新ヶ江の八幡さん 久保田町麦新ヶ江

国道二〇七号線、嘉瀬橋の西端から南の方へ下り、草木田を経て約九〇〇㍎行けば「久保田みどり橋」の近くに出る。そこから南東の方向に田地より小高い台地が見える。ここに石祠があり、付近の人たちは「八幡さん」と呼んでいる。

また、この石祠の北側には正一位稻荷大明神も祀られている。

八幡さんの石祠の左・右の扉の表には、五・七の桐の紋が浮き彫りにされ、裏側には「安永四乙未（一七七五）十二月吉日」と刻まれている。

祭礼は、以前は十二月十五日に行われていたが、今では十二月の第二日曜日に、神前に魚、米、野菜などを供えて神事が行われる。

古老の話によれば、今を去る二〇〇年ほど昔、嘉瀬川が現在の流れより更に西、中副の土井の古賀の方へ曲流していた頃、麦新ヶ江は嘉瀬郷十五（現、佐賀市）に所属していた。有重の八幡社の分霊を、この現在地に勧請したと伝えられている。



八幡さん

なお、八幡社については、次のとおりである。

八幡社は、わが国の神社の中で最も全国的に広くお祀りされている神社の一つである。本源は、大分県の宇佐八幡宮である。奈良時代に八幡神は国の大事業であった、奈良東大寺の大仏建立に関係し、平安期には、平安京近くの石清水にお祀りして、国の鎮護の神として尊ばれた。祭神が應神天皇、神功皇后であるために、皇族の末裔である源氏の氏神となつてからは、武家政権の確立と共に武神として諸国の武士たちに崇敬され、全国に祀られるようになった。

17 下恒安の天満宮さん 久保田町金丸

国道二〇七号線、久保宿交差点から南へ二・五キロ（国道四四四号線から北へ一キロ）の永里交差点から東へ五〇〇メートルのところ、金丸集落を通る町道の北側に「下恒安の天満宮さん」がある。

境内に、木造瓦屋根のお堂があり、奥の神殿には、高さ六五メートルの石祠があつて「天満宮」と刻まれ、右側に「文久二年（一八六二）壬戌」、左側に「八月吉辰」と刻まれている。

お堂の前には、東側に梅の木があり、その下に石造の水鉢がある。この水鉢の正面に「寄進奉」、背面に「文久二年十一月吉日」と刻まれている。

また、梅の木の北側には二段の台石の上に高さ六〇センチの石碑がある。この石碑の正面には「天満宮五十年祭執行記念碑」「島本家」と刻まれている。

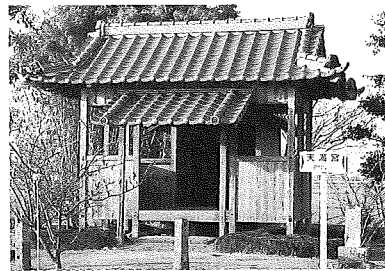
また、台石の右側には、西組、島本猪孤馬、外八名の名が、左側には、東組、原田惣三郎、外八名の名が刻ま

れている。台石の後ろには「下恒安当時十八戸、明治四十四年辛亥八月二十五日建立」と刻まれている。

天満宮の祭神は菅原道真である。

古老の話によると、下恒安では、春、夏二回のお祭りが催され、神事のあと子どもは、コーセン（煎り麦を石臼でひいた粉に砂糖を混ぜた食べ物）や豆を参拝者に配り、大人は酒席を設け、無病息災、家内安全、五穀豊穰などを祈念した。現在は十二月二十五日がお祭りである。

更に、境内西北のところには、寛政五年（一七九三）に建立された大日様の外、弘法大師、稻荷大明神が祀られている。



天満宮

18 大立野北の北之森お稲荷さん 久保田町大立野北

国道二〇七号線、徳方交差点から南へ三キロのところ、祐徳バス横江停留所がある。ここから三差路を東へ約八〇〇メートル行ったところ大立野北集落の北の端に「北之森お稲荷さん」がある。

境内北側の中央に、「北之森正一位稲荷大神璽」と刻まれた石祠がある。

その石祠の右側面には「明治三十九年六月七日」とある。

台石を見る。前面には、大立野寄附人、石川又八外四名の名前が刻まれ、後面に「上砥川村谷、石工永石佐吉」と、右面に「發起人鎌山俊八、塚原佐喜造、白濱多藏、原田源七、秀島令辰」と刻まれている。

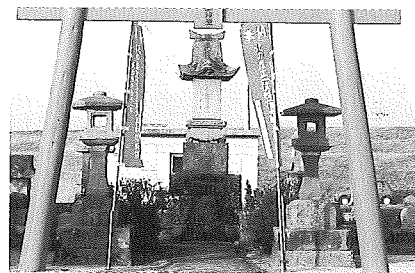
それから左側にある二つの石祠には、「菊王森正一位稲荷大神龕」「正一位菊之森稲荷大神龕」とそれぞれ刻まれている。いずれも、明治三十九年から四十三年代である。

境内には四基の常夜燈が寄進されているが、最も古いのは天保九年（一八三八）戊戌九月吉日、施主は北村中である。

また、多くの石像、石塔の中には宝暦十二年（一七六二）に建立された村地藏さんもある。

もともと北之森お稲荷さんは嘉瀬川改修以前は、堤防下にお祀りしてあった。その昔、大立野北にも漁業をする人が多く、船出の行き帰りに北之森さんを拝み、航海の安全、大漁を祈念した。

旧暦一月八日がお祭りで、「千里眼」さんの神事後、おこもりをした。広場では、小屋掛けをして芝居なども催されたこともある。



北之森稲荷

三 その他の宗教

善隣会佐賀教会 久保田町大立野東

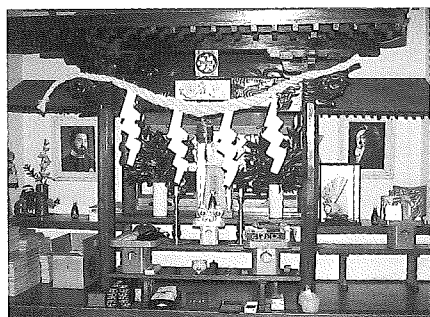
善隣会の本部は現在、福岡県の筑紫野市原田にある。その発祥の地は久保田町の大立野東といわれている。

この大立野東で生まれた力久辰齋とつきが、昭和二十二年（一九四七）に多久市筋原で立教。この人が善隣会の教祖（御神尊様）となった。

その後、本拠を神埼郡三田川町、佐賀市水ヶ江に移転したのち、昭和三十一年（一九五六）に筑紫野市原田に本部を構え、現在に至っている。

久保田町大立野の生家は、現在、善隣会佐賀教会となっており、西岡千代子氏が世話役をしている。

久保田の教会にも多くの参拝者があるといわれている。



佐賀教会の祭壇